日刊 CARGO 物流総合紙
Daily CARGO Transport & Logistics News
2012年(平成24年)
10月4日
木曜日
第10515号
月曜～金曜発行（祝日を除く）
購読料：1カ月8,400円（税込）
（昭和44年9月30日 第三種郵便物認可）
http://www.daily-cargo.com/

発行所：株式会社海事プレス社
本　社：東京都千代田区岩本町2-1-15 吉安神田ビル3階
TEL03-5835-4162（代表） FAX03-5835-4160
関西支局：大阪府大阪市西区京町堀1-17-8 京ビル5階
TEL06-6441-9800 FAX06-6441-9801
横浜支局：神奈川県横浜市中区太田町6-87 横浜フコク生命ビル8階
TEL045-681-7832 FAX045-681-7833
上海支局：上海市長寧区婁山関路85号 東方国際大厦A棟1304室
TEL+86-21-6211-8891 FAX+86-21-6211-8892
http://www.kaiji-press.co.jp
©海事プレス社2012 禁無断転載

平野ロジスティクス

新型セミ・トレーラー導入

「＋1」ULD4枚搭載

平野ロジスティクス（本社＝神戸市、田中英治社長）が、96インチ仕様のユニット・ロード・デバイス（ULD）を4枚搭載できる新型セミ・トレーラー車「＋1」（プラス・ワン）を導入した。トラックの場合、ULD搭載は通常3枚までとなるが、これより1枚多く輸送できる。車軸は1軸で大型車に区分されるため、高速道路料金はトラック（大型車）と同じ。長距離輸送でよりメリットを発揮する。11月の営業運行を目指している。同社関東支店の益子研一支店長は「コスト面、環境面などで、お客さまのニーズにお応えしたい。またセミ・トレーラーの強みを生かした物流効率化にも取り組む」と話す。

益子研一支店長

「＋1」の特徴は、フレーター・サイズのコンテナの高さ（96インチ）に対応したトレーラーであること。同社によると、1軸トレーラーで内寸高が2485センチを確保したトレーラーは日本で初めてという。

通常のトラクターを使用すると、車両の高さが規定（3・8メートル）を超えてしまう。そのため特注で超低床トラクターを導入することで規定をクリアできる。

貨物上屋などへのフィッティング調査を経て、11月をめどに営業運行を開始する予定。年度内に計4台を配備する計画で、さらに来年度以降に増車し、将来的には10台規模とする。

「＋1」は大型車の区分となるため、例えば高速道路料金はトラック（大型車）と同じ。96インチ仕様のULDを1枚多く搭載でき、かつ高速道路料金がトラックと変わらず、コスト面でメリットを提供できる。1台の車両にULDをより多く搭載できることによる物流効率化で環境負荷低減も期待される。

益子支店長は、セミ・トレーラー車ならではの強みも生かす考え。例えば、夜間時間帯などに上屋が閉鎖している場合も、所定の場所にトレーラー（荷台）部分を置いて、トラクター（ヘッド）部分だけで移動し、別のトレーラーを牽引して輸送してくるなど、待機時間の解消（有効活用）が可能となる。トレーラー部分にはGPSを装着。暗証システムを組み合わせた形でトレーラーの固定を可能とし、セキュリティー面でも万全を期す。

また、トレーラーだけをフェリーに搭載して海上輸送し、到着港で引き取ってトラクターで輸送するといった、モーダルシフトも可能だ。時間に余裕がある貨物については、モーダルシフトによるコスト削減、環境負荷低減を提案できる。

さらに、例えば東京と大阪間といった長距離輸送において、東京、大阪をそれぞれ出発した「＋1」が中間地点の拠点で合流。お互いのトレーラー部分（荷台部分）を交換することで、東京方面から来たトラクター（ヘッド部分）は東京方面へ、大阪方面から来たトラクター（ヘッド部分）は大阪方面に戻る形となり、ドライバーは東京、大阪それぞれの自宅に帰ることができる。ドライバーの労働環境の改善にも貢献できる。

平野ロジスティクスは、ULDを5枚搭載できるフル・トレーラー車「＋2」を既に営業運行している。短・中距離輸送には「＋2」、高速道路を使用するような長距離輸送には料金面でメリットが出せる「＋1」を配車するなど、柔軟な使い分けで顧客ニーズに対応する構えだ。

「＋1」はULD4枚を搭載できるセミ・トレーラー車だ

この人に聞く

―アジアについては。

渡辺 住商本体の海外工業団地部がインドネシア、[illegible]

[illegible]

流保険事業本部内にあるため、企業の進出情報なども早い段階で入手できるメリットも生かしていく。

海外のSGLグループ会社とは人的交流、ノウハウの相互融通なども進めている。[illegible]

[illegible]

5%程度の実績を毎年出しているが、スペースのやりくりでは追いつかないレベルになってきた。近隣に新規スペースを探しているが、空調や天井の高さなど通販物流には制約が多い。

渡辺 国際輸送での利用比率はまだ低いが、前述の化粧品メーカーの事例のように、日本の既存顧客の展開に合わせてサービスを拡大している。日系以外では、外資日用品大手が日本で集中生産している品目で、[illegible]

界だ。マキシコンの利点である、内袋式という衛生面を評価いただけるのは、やはり日本や先進国の顧客ということになる。

―アジアや新興市場に注目が集まるが、欧米につい[illegible]

り組んでいる。

欧州については、債務危機など不安要素があるのは確かだが、縮小などは考えない。先ごろチェコの倉庫を拡充するなど、特に東欧ではまだまだ伸び代がある[illegible]

TIACA第26回ACF 米アトランタで開幕

【アトランタ2日＝岩橋眞通】航空貨物に関係する航空会社、フォワーダー、空港、ハンドリング、荷主などが参加する世界的団体、国際航空貨物協会（TIACA）の第26回インターナショナルエアカーゴフォラーム（ACF）が現地時間2日午前、米ジョージア州アトランタにあるジョージアワールドコングレスセンターで開幕した＝写真㊤。

2年に1回の頻度で行われるACFは今回で50周年。併設の展示会には約240団体がブースを出展し主催者のTIACAは3日間の会期中に約5000人の来場者を見込んでいる。

2日午前に行われたACFでは、米運輸省主催の基調講演、航空会社や政府関係機関、荷主などの経営層らによる顧客満足をテーマとしたパネルセッション、米国土安保障省や国際民間航空機関（ICAO）、貨物航空会社関係者らによる国際スマートセキュリティーに関する意見交換などが行われた。

展示会はACF終了後の2日午後、マイケル・スターンTIACA会長、カシム・リード・アトランタ市長＝写真㊦＝らのあいさつによるオープニングセレモニーを皮切りにスタートした。会期は4日までの3日間で、各国空港、航空会社、フォワーダー、輸送機器メーカー、セキュリティー機器メーカー、ITソリューション関係など航空貨物に関係する多数の団体が出展、来場者に対するPR活動を展開している。

次回2014年のACF開催地はソウルに決定している。3日には仁川国際空港公社主催によるガーラディナーが近くのジョージア水族館で行われる。

日刊CARGOは9月10日に発行した第2部英文特集を来場者に配布している。

インド向け海上混載刷新

日本通運

日本通運は3日、インド向け海上混載サービス「マハラジャエクスプレス」を刷新すると発表した。19日東京港出港分から、日本発チェンナイ・バンガロール向けを、再混載を伴わないダイレクト便に切り替える。ニューデリー向けダイレクト混載に続く刷新第二弾となる。

従来、日本発チェンナイ・バンガロール向け混載は、経由港のシンガポールでコンテナの開封・仕立てを行ってきた。昨今の日系企業のインド南部地域への進出拡大を受け、日本で仕立てたコンテナをチェンナイ、バンガロールまでダイレクト輸送することで、約1週間のリードタイム短縮と、積み替え時のダメージリスク低減を実現する。

チェンナイ、バンガロー[illegible]

きょうの紙面

2面 エアポートカーゴサービス・小池社長 インストラクター制度拡充
3面 日本―アジアのコンテナ運賃交渉 現状維持で決着
4面～5面 CARGOリポート 沖縄貨物ハブ3周年特集 アジア物流戦略講演会 沖縄から日本を元気に
6面 フランダース地方の物流事情 欧州での優位性強調